

帝京大学薬学部1年生を対象にした高齢者福祉施設におけるコミュニケーション実習とその事前教育の構築

野館 敬直¹, 亀山 友美², 増田 大輔², 高橋 和子¹, 山口 真二¹, 戸原 明¹,
唐澤 健¹, 小佐野 博史¹, 栗原 順一¹, 曾木 語一², ○丸山 桂司¹(¹帝京大薬,
²社会福祉法人長寿村)

【目的】超高齢社会を迎えた現在、薬剤師を志す学生にとって、高齢者とのコミュニケーションスキルを身につけることが不可欠となっている。そこで、帝京大学薬学部では、1年次に早期体験学習として、高齢者福祉施設において高齢者を理解し信頼関係を構築するためのコミュニケーション実習を実施している。事前教育では、実習において望ましい服装や態度を学び、高齢者との適切なコミュニケーションスキルを身につけるため、スモールグループディスカッション (SGD) を実施していた。今回、実習先の介護施設職員によるロールプレイなどを積極的に取り入れた演習を実施し、事前教育の充実を図ったので報告する。

【方法】演習科目『コミュニケーション 1』は、1年次前期課程 (4月~7月) において、90分×2コマを1回とし、「医療従事者としてとるべき態度」などについて、SGD やロールプレイなどを交えながら、計8回学習した。演習終盤では、高齢者福祉施設の職員を講師として招き、高齢者疑似体験システムや車椅子を用いて、日常生活の不自由さとそのケアについて学習した。その後、実際に高齢者福祉施設におけるコミュニケーション実習を実施した。

【結果および考察】コミュニケーション実習を実施するために、高齢者の特性について疑似体験システムや車椅子を用いて事前に学習しておくことにより、過度な緊張感を持つことなく高齢者の方とコミュニケーションをとることが出来た。実際に医療現場において、薬剤師は患者の特性を理解した上で服薬指導をすることが必須であり、今回の実習を通じてそのために必要なスキルが習得できたものと考えられる。